

教材活用シリーズ 第101回

☆日図協加盟出版社の発行している教材について、実際の授業における活用例、より効果が得られるポイント（場面・方法）などをご紹介いたします。

スモールステップを重ねる漢字教材

(株)浜島書店
『毎日続ける10問漢字
(光村図書版)』



(株)浜島書店
編集部 国語担当

1. 教材の特長

特長① 覚えきれぬ問題数 やりきれぬ練習量

本書の基本コンセプトは書名にもなっている1ページ「10問」の構成です。

小社発行の「学習漢字ノート」をはじめ、同様の書籍は多くが見開き2ページの構成です。実際に、2ページ構成の本をご採用の先生からは、

「問題数が多く、生徒が一度に覚えきれないため、分割して学習させ小テストを行う」

というお声を耳にしました。そこで取り組むための適量として1ページ10問で企画を立てました。

1ページ単位でのスモールステップで学習を進められる誌面には、

「少しずつだから覚えきれぬ」という自信をもってほしい

「1ページずつだからやり切れた」という達成感をもってほしい

というメッセージをこめました。漢字の力をつけることが目標ですが、少しずつ積み上げるといふ学習の基本姿勢を本書を通して身につけてもらいたいとも思っています。

特長② 覚えた漢字を使える漢字に

本書を開くと、まず目に入るのが、誌面の一番上に並ぶ大きな用例です。

学習する漢字の用例を最初に示すことで、

言葉のイメージと重ね合わせられ、覚えやすくなります。

すぐ下に、例文があり、難しい言葉には意味を添えているため、知らない言葉や使い方がわからないものはすぐに確認できます。漢字は、覚えることではなく、使えることが大切だという思いで工夫しました。



特長③ 細かい点に注意する新出漢字 繰り返して身につける既習漢字

新出漢字を青色、既習漢字を黒色で示しています。

新出漢字（青色）

初めて学習する漢字であるため、「ここは突き出る」「点を忘れない」など、間違えやすいところに注意書きを添えました。念を押しておきたいところを強調しています。

既習漢字（黒色）

新出漢字として学習しても時間が経てば記憶は薄れていきます。そこで、本書では教科書本文で使われる既習漢字を積極的に取り上げました。各学年の3〜4割程度は既習漢字となります。

既習漢字は、小学校漢字も多く含みます。小学校漢字は、高校入試で書き問題として出題されるので、教科書で使われるたびに確認できるようにしました。

2. 本書の使い方

①なぞり字 見ながら書くとは字が崩れたり、雑に書く生徒もいたりします。「なぞる」には、「正しい字形を意識すること」に加え、「丁寧に書くこと」などの効果があります。書き出し点もあり、一画目を迷わずに書き始められます。

②読み 用例の下に読みを書き込みます。正しいかどうかは、すぐ下の例文で確認できます。

③三回書き 一回でも多く書かせたいという意見もありましたが、回数が多過ぎて書く作業に陥ることを懸念し、練習は三回としました。

習得の早い生徒には用例に合わせてこれだけは書いてほしいという回数で、学習習慣があまりない生徒にも取り組める回数としています。

④確かめよう マス目に漢字の読みを書き込みました。覚えたかをセルフチェックできます。

カラー化やキャラクターの使用などで親しみやすい誌面になる工夫をしています。

⑤新出漢字の音訓 教科書の本文では出なかつた音訓を扱いました。どのような熟語で使われるのかがわかります。

3. 二種類の小テスト

ご指導に合わせた形式を選べます。

〔1ページが範囲の10問テスト(CDに収録)〕

- 本誌のページ数と同じ回数のテスト。

- 学習した10問がそのままテストになるため、生徒の学習意欲を引き出せます。

〔2ページが範囲の20問テスト(別売り)〕

- 本誌見開き2ページを範囲。

- 一週間に一度のペースでテストを行うことを想定しています。書きが15問、読みが5問で出題しています。

(1・2年が32回、3年が24回)

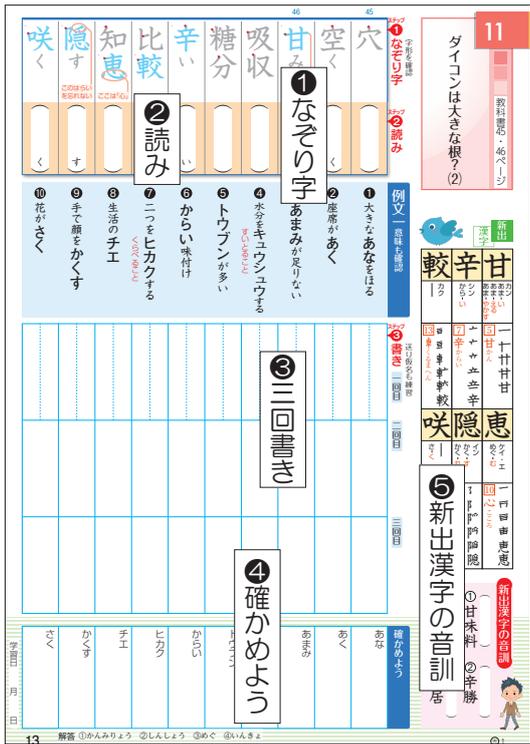
小さな努力を継続して、学習習慣を定着

本書を使うにあたって、1ページの所要時間を次のように想定しました。

- ・「なぞり字から一回目の書き」を5分
- ・「二回目と三回目の書き」を5分

授業の冒頭で使うか、家庭学習で使うかなど、さまざまな使い方ができます。

短い時間でコツコツと力をつける。この練習帳で漢字を少しずつ身につけ、同時に学習習慣も定着させてほしいと願っています。



漢字の知識に関する問題

「漢字の成り立ち」「熟語の構成」などの知識に関する問題を収録。単調になりがちな練習ページが続くなか、雰囲気異なる誌面で漢字への理解を深められます。